



## 高校球児にスポット

# 特別な「夏」を迎えた選手たち 仲間に、家族に、指導者に、地域の応援に感謝！

# 全カプレーで恩返し！

新型コロナウイルスの影響で、高校球児にとって大きな夢であった「甲子園球場」を舞台にした「全国高等学校野球選手権大会」が中止となりました。3年生球児たちは、春も夏も大会が無いまま「引退」になってしまふのか、やるせない日々が続きました。

そんな状況下の球児たちへ、これまでの努力が報われる舞台と花道をと、代替大会「山形県高等学校野球大会2020」が開催されました。当町からは、4人の3年生が出場。それぞれの想いを聞くと4者4通りの「感謝」の言葉がありました。

小・中学時代に野球を指導した恩師は「4人とも正々堂々とした全カプレーは素晴らしかった。スタジアム内外でのあいさつや立ち振る舞いが立派だった。小さい頃から野球で学んだ技と心を表現してくれた。彼らの姿を見て、野球を続ける子どもが増えて欲しい」

と感慨深く話していました。困難を乗り越え、特別な「夏」を経験した4人。今後の更なる活躍を期待します。



2回戦でホームランを放った梁瀬選手（中央）



羽黒高 3年  
高橋 大樹選手（三枝）

強肩の3塁手。長打力と勝負強いバッティングが持ち味。70人の部員競争に勝ち抜き代打の切り札としてベンチ入り。

練習から学校生活、私生活まで「甲子園基準」を目標にしてきた。2年前は甲子園に行き、昨年は行けず、今年は代替大会が最後の夏になってしまった。どの高校より甲子園にかけてきた自信があるので、2年半の全てをぶつけ、お世話になった先生方や家族に恩返しできるように全力でプレーしたい。



新庄北高 3年  
柿崎 光希選手（内町）

キャプテンとして創部120年の伝統校を率いた。投手で4番打者。気迫あふれるプレーでチームの大黒柱として活躍。

家族はもちろん、OBの方や地域の方などたくさんの方々からの支えがあり、とても感謝している。3年間最高の仲間と一緒に野球ができたことは一生の宝物。高校野球で学んだことを活かしてこれからの人生を歩んでいきたい。



新庄東高 3年  
栗田 元希選手（小蟬）

192cmの身長を生かして一塁手として出場。2回戦でタイムリー2塁打を打ってチームに貢献。

高校野球の大会を終え、とても悔しい思いがたくさんあった。しかし、今まで11年間野球を続けてきて、一番近くで支えてくれた家族や仲間たちには感謝の気持ちでいっぱい。野球を続けてきて良かった。



東海大山形高 3年  
梁瀬 和麻選手（羽場）

県内でも屈指の俊足強打の選手。昨秋からレギュラー選手として、持ち前の明るさで攻守にわたりチームを牽引。

下宿生活をしながら、厳しい練習に耐えて頑張ることができたのは、家族や親戚、仲間、地域の皆さんの応援のおかげ。野球が大好きで一生懸命練習をしてきた成果が出せた。スポ少・中学時代に基礎技術、心構えを教えてくれた指導者の皆さんにも感謝したい。